

### 3) 感染制御の基本における課題

<sup>1</sup> 東北大学大学院 感染症診療地域連携講座

○ 國島 広之<sup>1</sup>

近年、感染制御の分野においては、多くの基幹病院で専従者が配置され ICT が活動を行っており、多くのエビデンスをもとに標準予防策、手指衛生、抗菌化学療法、環境整備など様々な対応を行っている。また、人材育成の面でも感染症専門医・指導医、抗菌化学療法指導医・専門医、薬剤師では抗菌化学療法認定薬剤師や感染制御認定薬剤師、看護師では感染管理認定看護師(ICN)、検査技師では感染制御認定検査技師(ICMT)など、様々な資格認定や教育制度が行われている。

加えて、実際の地域医療に応じて、基幹病院以外に地域病院、歯科を含む診療所、社会福祉施設など様々な施設で感染対策が行われている。感染制御の基本は標準予防策と手指衛生の遵守であり、基本的な交差感染対策が重要であるにも関わらず、手指衛生の遵守率は 30%を超える施設は多くない可能性が高いのが現状である。また、エビデンスの乏しいなか、自動手洗い設備やゾーニング、足踏み式廃棄容器など様々な工夫も行われている。

また近年では、通知や診療報酬改訂もあり、行政を含めた地域連携の取り組みが行われ、地域全体で感染対策を行う機運が高まっている。そのようななかで、様々な施設で現実的にどのような課題がみられ、どのようなエビデンスが必要であり、また解決ならびに調整できるのかが求められている。